

まちづくりの目標の検討の視点

第 2 回での主な意見

(1) 基本理念に関する要素

(事務局例示) 「人間を大切にする」

(意見)

- ・個人が大切にされて互いに理解し、ともに支え合うこと
- ・多様なことを認め合うこと
- ・他者に思いやりを持つこと
- ・社会の寛容性・包容力を高めること

(2) 市民像に関する要素

(事務局例示)

「自然を愛し、自然に学び、自然とともに生きる市民」
「まちを愛し、まちと文化を創造し、まちとともにあゆむ市民」
「人間を愛し、広く社会の平和を求め、ともに認めささえあう市民」

(意見)

- ・学び・挑戦・成長などの要素
- ・まちが変化しなければならないことを踏まえた変化を恐れない、挑戦などの要素
- ・行政に頼るのではなく、自分たちでやろうとする姿勢

(3) 都市像に関する要素

(事務局例示) 「文教都市くにたち」

(意見)

- ・文教都市はイメージが良く、人を引き付ける魅力的な言葉
- ・教育だけでなく、文化的な要素にも視野を広げるべき
- ・大人も子どもも学び続けることが重要
- ・学校が多くあることだけではなく、創意工夫ができる、創造的な取り組みが起きる環境づくりが重要(挑戦的要素を加えるべき)
- ・都市と田園が混じり合うまちは少なく、魅力的(緑を大切にしたい)

検討事項・視点

まちづくりの目標

「 _____ 」

構想期間中に実現を図る具体的な姿を描き出す目標を検討(検討委員会報告書)

1つのキャッチフレーズとその説明に整理することを検討(検討委員会報告書)

まちづくりの目標に加えるべき要素はなにか

(例)「この地から新たな国が立つ」「挑戦」「多様性・寛容性」(ソーシャルインクルージョンを意識)

(参考)「20年後のくにたち」検討プロジェクトチームによるまちづくりの目標

「知のまち、歩むまち、育むまち 文教都市くにたち」

知のまち

国立市は学校や大学が多い学園都市です。そのような知的資源を最大限に活かし、質の高い教育や子育て施策を展開していくことや、産・学・官の連携を都市の活力としていくという思いで「知のまち」を掲げました。

歩むまち

「歩むまち」には、市域8.15 km²というコンパクトさを活かし、回遊性のある歩きたくなる街を目指すという思いを込めています。また、市民とともに歩むまちづくりを行うという意志の表れでもあります。

育むまち

「育むまち」には子育てしやすい環境づくりや、人と人とのつながりを作る、絆を育むといった思い、そして、商工業や農業を育てていくという思いが込められています。

以上の要素を核として、国立市は文教都市であるという誇りを今一度認識し、都市ブランドとして他市との差別化を図ります。市民が市に誇りと愛着を持ち、子どもたちが将来にわたって自慢できるまちをつかっていくための目標、それが「知のまち、歩むまち、育むまち 文教都市くにたち」です。